

聖堂窓ガラスの江戸切子

聖堂窓ガラスの内面全面264枚は聖徳太子廟工事(2009年8月)に「十字架」と「薔薇」と「麦」模様の江戸切子に改装されました。切子きりことは、ガラス表面をグラインダーや硝子石で削り、磨き上げて文様を施していく技法ですが、製作において大まかな位置取りを記した図面で下図を描きません。窓ガラス1枚1枚が矢代益美(やしよますみ)氏の手により製作されました。矢代氏共計15年が経ち日立市生まれで東京都流江芸士、国の江戸切子伝統工芸士です。



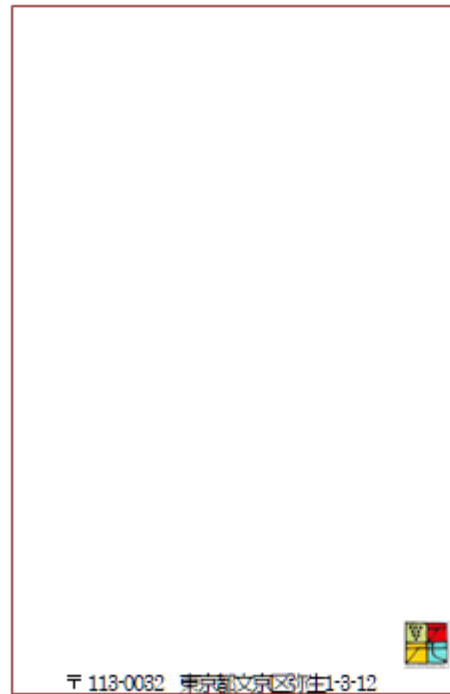
6

パイプオルガン

パイプ数354本、ストップ数7本というパイプオルガンとしてはシンプルなルックセントラル製鋼製のオルガン。私たちは日頃のオルガンの音色と共に礼拝を行っています。楽器やオートパイを作っている「YAMAHA」のHPの歴史のコーナーに「聖テモテ教会」と書かれたパイプオルガンの白黒写真が掲載されていました。1982年国産第1号のパイプオルガンがこの東京聖テモテ教会に設置されて幾度か演奏会が開かれ、NHKラジオでも放送されたという記録が残っています。残念ながら戦火で消失しました。パイプオルガンの音色を再び響かせたいという想いのもと、時間を要しましたが2002年このオルガンが設置されました。



7 消失した旧パイプオルガン



〒113-0032 東京都文京区御徒1-3-12



日本聖公会

東京聖テモテ教会

2019

聖堂

現在の聖堂は吉田辰夫氏の設計によるもので、昭和25年(1950)に落成、献堂式を行っています。スレート葺きの木造漆喰造り。その後、耐震工事を施し、屋根は銅板葺きに葺き直しました。

旧聖堂は明治42年(1909)に建立され、旧富岡製紙工場(群馬県)にみられる木骨煉瓦造りという構造的強さと装飾的美しさを兼ね備えたものでした。おかげで関東大震災にも耐えたものの東京大空襲で消失しました。明治43年に発表された森鷗外「青年」という小説に「出来ればかりの会堂」という記述で、この聖堂が登場しています。



2

ステンドグラス

高橋徹氏のデザイン、製作により聖堂正面上部の5連窓のステンドグラスが1988年に完成。題名は「風象」です。その後聖堂側面に2連の、また聖堂後方上部にもステンドグラスが入りました。



3

聖卓

天板は、けやきの一枚板(加工後の厚さは10.8cm)です。穏やかな土地で育った樹齢200年以上の木だったようで、15年以上屋外で乾燥された後加工されました。原材は長さ5mあり、4本の脚も、天板との間の土台も全て同じ板から切り分けています。5mというと、聖堂の天井まで位の高さです。釘は1本も使用しておらず、総重量は250kg以上あります。脚は木が生えていた時と同じく根元が床側に来るように埋められ、南向きの側を南側に配置しています。聖卓はキリスト教では「最後の晩餐」における食卓をイメージしています。



4

チューブラベル

教会の屋根の多くには鐘楼があります。鐘楼内の鐘は礼拝の開始を知らせる合図として、さらには時の鐘として用いられます。本教会の鐘楼には残念ながら鐘が設置されていませんので、チューブラベルがその役割を担っています。鈴等を使用する事もあります。



5